

# 漕艇部部歌

— 春三月の

(茨戸の歌)

— (昭和三十年)

木原慎一君作歌・作曲

一

春三月の蝦夷島  
長き眠りにとぎされし  
茨戸河畔の雪とけて  
とく待ちわびし水の子の  
喜び笑ふ声すなり

二

岸の辺近く郭公の  
啼く音うれしく聞き初めね  
漕ぎ来し方を眺むれば  
霞にとける野の煙  
水郷の春の昼閑か

三

岩燕は去りて風熱き  
夏たけなはの候となる  
運河一発引き抜きて  
しばし憩はむ土手の上  
羊も寄りて草を食む

四

いつか炎暑の日はゆきて  
光のどけき茨戸河  
青き水の面に波立たず  
こよなき季節訪れぬ  
心ゆくまで漕がむかな

五

手稲は紅く空高く  
秋の気深くなりにけり  
かい先近くぼらはねて  
夕練習終へるころ  
陽はくれないに没したり

六

河霧深くたちこめて  
霜結ぶ朝艇出す  
みぎわの木々は枯れはてて  
冬もま近となりぬれば  
惜しみて漕がむ残る日々

七

北風ささび雪は舞ひ  
ふぶきに暮れる冬の河  
今日ぞわれらが漕ぎ納め  
いざわが友よ胸深く  
また来む年の幸思へ